

令和8年度 第1回 大阪市立長原小学校 学校協議会 実施報告書

校園名 大阪市立長原小学校

校園長名 藤松 大樹

日時	令和8年5月26日(火) 午前10時から午後11時30分	
場所	長原小学校 図書室	
出席者	委員など	四辻 伸吾(会長) 鈴木 光一(委員) 大城 裕美(委員) 橋本 綾佑(欠席) 大野 大輔(委員) ※オンライン参加
	校園	藤松 大樹(校長) 丸岡 桂(教頭) 小山 真佳(教務)
	区役所	欠席
議題	① 令和8年度「運営に関する計画について」 ② 令和8年度 年間行事予定について ③ 意見交換	
協議 要旨	協議の結果	意見の概要
	<p><上記議題①について、生成AI(NotebookLM)による動画解説された資料による提示></p> <ul style="list-style-type: none"> 委員のみなさまから様々な見解をいただき、今年度のビジョンについて共有することができた。 子どもNAVIによる質疑応答によって、子どもから見た学校運営について見通しをもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 長原小学校の取組の一つ「長原 Navi」(子どもが主体的に自校の良さ PRする)での発表を通して「長原小学校の良さ」を知り、学校協議会での目的が明確になった。 目指す3つの力のうち「自分も人も大切に作る力」が学びの土台である。学校としてどのように子どもたちがその力を身に付けられるようにするか考えていく必要がある。 支援学校や幼稚園との関わりに対する6年生の子どもたちの思いから、安心して入学させられると感じた。 選択制で長原小学校を選ぶ人が増えるように、発信していくことが大切。例えば、特例校として長原小学校の“良さ”を生かす方法もある。 大人の多忙感やイライラは、教室内にも転移する。カリキュラムマネジメントによって生み出された「創造的余白の時間」によって心理的安全性も高めていきたい。 保護者や地域のニーズも大切であるが、目先の認知能力には飛びつかないようにする。大切なのは、人生において、身に付けた知識・技能をどう活用していくか。
協議資料	<ul style="list-style-type: none"> 令和8年度「運営に関する計画」 令和8年度 年間行事予定 	
備考	傍聴者[5]名	
	児童5名	